

令和5年2月10日
教育総務課

(仮称)世田谷区教育振興基本計画の検討状況について

1. 主旨

令和4年7月26日の教育委員会定例会において報告した(仮称)世田谷区教育振興基本計画(以下「教育振興基本計画」という。)について、令和4年度の検討状況を報告する。

2. 新たな計画の考え方及び計画期間など

社会情勢の変化が著しく、また社会のあり方そのものが劇的に変わりつつある状況にあることから、時代の変化などに対応していくため、ビジョンと行動計画の一体化を図り、教育を取り巻く社会情勢の変化などを反映できる計画とする。

また、教育基本法第17条に基づき、国の教育振興基本計画(令和5年度～9年度)を参酌することなどを踏まえ、教育振興基本計画の期間を5年とする。なお、同じく令和6年度を初年度とする新たな区の基本計画の期間は8年であるため、今後、整合性を図る必要がある場合は、調整計画を策定するなど柔軟に対応する。

3. 検討経過

(1) 幹部会議(令和4年8月から全4回実施)

教育委員会事務局の管理職を構成員として、教育振興基本計画の骨子となる「教育目標」「基本方針」に関する検討などを行った。

(2) アドバイザリー会議(令和4年10月及び11月、2回実施)

教育振興基本計画の策定にあたり、最新の教育に関する動向や課題などを踏まえ、教育に係る専門的な知見を高めるために学識経験者を交えた意見交換等を実施した。(別紙1)

(3) 世田谷区教育振興基本計画策定委員会(令和4年12月23日に実施)

教育長を委員長に、幼稚園長代表、小・中学校長代表、学校運営委員代表、幼稚園PTA連絡協議会代表、小・中学校PTA連合協議会代表、社会教育委員代表、青少年委員代表、教育委員会の管理職等で構成員とする世田谷区教育振興基本計画策定委員会をオンラインで開催し、事務局からアドバイザリー会議と子どもの意見聴取結果の概要などを報告し、教育振興基本計画の策定について意見交換等を実施した。

4. 子どもの意見聴取

教育振興基本計画の策定にあたり、当事者である児童・生徒の意見を参考にするため、アンケート及びワークショップを実施した(別紙2)。なお、今後の意見聴取については、実施手法、対象者の選定方法などを調整し、令和5年5月ごろに実施する予定(別紙3)。

5. 教育振興基本計画策定における基本となる考え方

令和5年4月1日に施行される「こども基本法」においては、全てのこどもの年齢及び発達に応じ、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されることや計画・施策等でこどもの意見を表明する機会が確保されることが定められている。また、アドバイザー会議での学識経験者からの意見なども踏まえ、教育振興基本計画においては、『子どもを中心に据えた計画の策定』、『子どもの最善の利益』及び『子どもの意見の尊重』を基本とする。

6. 「教育目標」と「基本方針」に必要な視点

幹部会議、アドバイザー会議を踏まえて、教育目標と基本方針の検討にあたっては、以下5点を重要な視点とし、計画の骨子（案）を策定していく。

- (1) 互いの違いを認め合う（共生社会）視点
- (2) グローバルに活躍する人材育成の視点
- (3) 幸せ（個人と社会全体のウェルビーイング Well-being）の視点
- (4) 子どもを中心とした教育の視点
- (5) 生涯学習・社会教育の充実の視点

7. スケジュール（予定）

令和5年	7月	教育委員会、文教常任委員会報告（教育振興基本計画の骨子（案））
	7月～9月	教育委員会（教育振興基本計画（素案））
	9月	文教常任委員会報告（教育振興基本計画（素案））
	10月	教育振興基本計画（素案）のパブリックコメント
令和6年	2月	文教常任委員会報告（教育振興基本計画（案））
	3月	教育委員会（教育振興基本計画の議決） 教育振興基本計画の策定

■アドバイザー会議の概要（別紙1）

会議出席の学識経験者2名の発言要旨
 （日本大学文理学部 末富芳 教授、兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授）

第1回開催日 令和4年10月5日（水）18時～19時30分 オンライン会議

会議概要（末富教授の発言）

「こども基本法・教育基本法体制での教育政策の方向性について」

- ①こども基本法、子どもの権利をしっかり位置付けた新たな計画の立案
- ②指導モデルから支援モデルへの移行を踏まえて、子どもへの人権侵害が学校の中で絶対に起きないことを実現
- ③不登校の子どもたちへの学びの保障や費用の支援、学校外での社会教育も含めた豊かな学習活動の実現
- ④子どもの意見表明の尊重、参画の保障
- ⑤子どもの権利を何よりも教職員が学び、研修し、指導していく。管理職への研修を実施し、管理職の意識を変える

会議概要（竹内准教授の発言）

「新しい時代への対応、子ども主体の取組みについて」

- ①GIGAスクール構想で子どもたちがネット環境を使う中での新しい時代に対応した指導・支援が必要
- ②子どもたち自身に考えさせるようなルールづくりが大切であり、新しい時代に合ったものにしていく必要がある
- ③子どもたち自身に考えさせて、子どもたち自身で検証させることが必要
- ④海外のいじめ対策では加害者に寄り添っている。日本では加害者を指導しても、次のいじめが生まれ、他の支援もなく学校の先生に丸投げしているのが現状

第2回開催日 令和4年11月16日（水）18時～19時30分 オンライン会議

会議概要（末富教授の発言）

- ①国の第4期教育振興基本計画の動きを踏まえる
- ②指標は固め過ぎずに、各章の下での節や項で意識して考えていく
- ③アンケートは、完全無記名で実施し、学校の楽しい要素と楽しくない要素を評価させるほうが率直な意見が出る
- ④自分の権利と自由を大切にするから、相手の権利と自由も大切にできる
- ⑤子どもの参画、アンケート実施手法など、パイロットケースを組み立てた上で、意見の反映の試みを実施できるように無理なく進めることが必要

会議概要（竹内准教授の発言）

- ①子ども中心の理念・教育目標は、非常に重要
- ②国際比較のデータを指標とする方法もある
- ③意見聴取については、同じ子どもたちとやり取りしていくことが必要
- ④子どもたちが感じる息苦しさや楽しさが、今の学校とどのように違うのか、論点整理が必要
- ⑤教員へのファシリテーター研修を実施していくと、学校が変わっていき、教員は子どもの支援者になる

次期教育振興基本計画に必要なこれからの視点

- ・子どもの意見などを踏まえ、子どもを中心に据えた計画を推進していく
- ・子どもの最善の利益を守っていくことを前提に、5年間の重点事業などを設定し、各課が施策を推進していく

区側出席者

教育長、教育総務部長、教育政策部長、教育総合センター担当参事、生涯学習部長、教育総務課長、学校職員課長、教育指導課長、乳幼児教育・保育支援課長、教育研究・研修課長、教育相談・支援課長、学校経営・教育支援担当副参事、生涯学習・地域学校連携課長

■ アンケート実施結果（別紙2）

実施概要など

1. 実施期間
令和4年9月7日（水）～9月21日（水）
2. 実施校
【小学校3校】用賀小学校、船橋小学校、下北沢小学校
【中学校2校】桜丘中学校、東深沢中学校
※1学年1クラス（小学校18クラス、中学校6クラス）に依頼
3. 実施手法
Microsoft Forms を使用
※QRコードを児童・生徒のiPadのカメラで読み込んで記述式で回答



実施目的

- ①第2次世田谷区教育ビジョンを引き継ぐ（仮称）世田谷区教育振興基本計画の策定にあたり、児童・生徒の意見を参考にするため。
- ②子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）、こども基本法（令和5年4月施行予定）、世田谷区子ども条例などの「子どもの意見の尊重」の主旨やこども家庭庁の考え方を踏まえて、アンケート実施を決定

アンケート内容

質問1

みんなが楽しいと思う学校は、どんな学校ですか。
また、どんな学校にしたいですか。
（共生社会（違いを認め合う）に関する視点）
（学校生活や学習内容、教育環境面に関する視点）

質問2

みんなが幸せになるためには、なにが必要だと思いますか。
（ウェルビーイングに関する視点）



質問3

大人になったら、どんなことをしたいですか、してみたいですか。
（目標設定、挑む・挑戦する意欲に関する視点）



アウトカム

（仮称）世田谷区教育振興基本計画の骨子（教育目標・基本方針）案の検討

■ アンケート実施結果

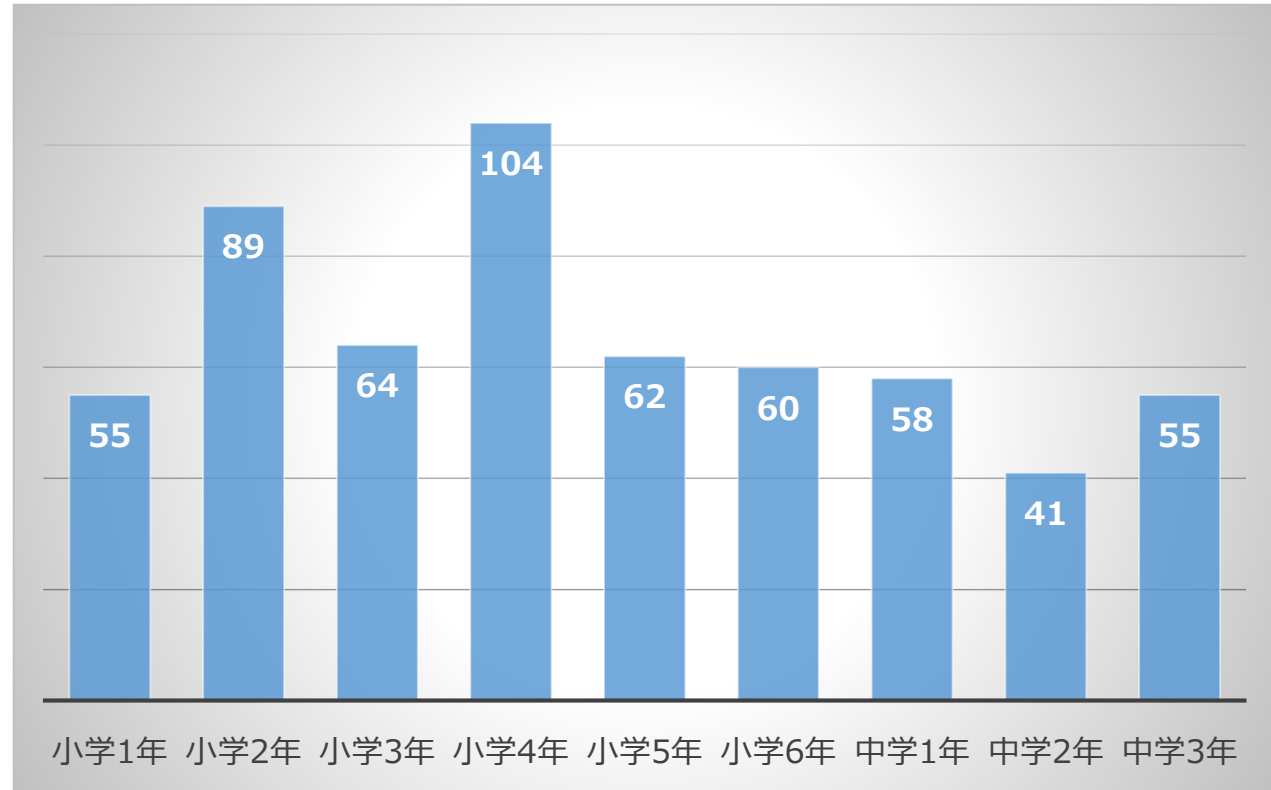
回答者数

回答者数 … 588名



内 訳

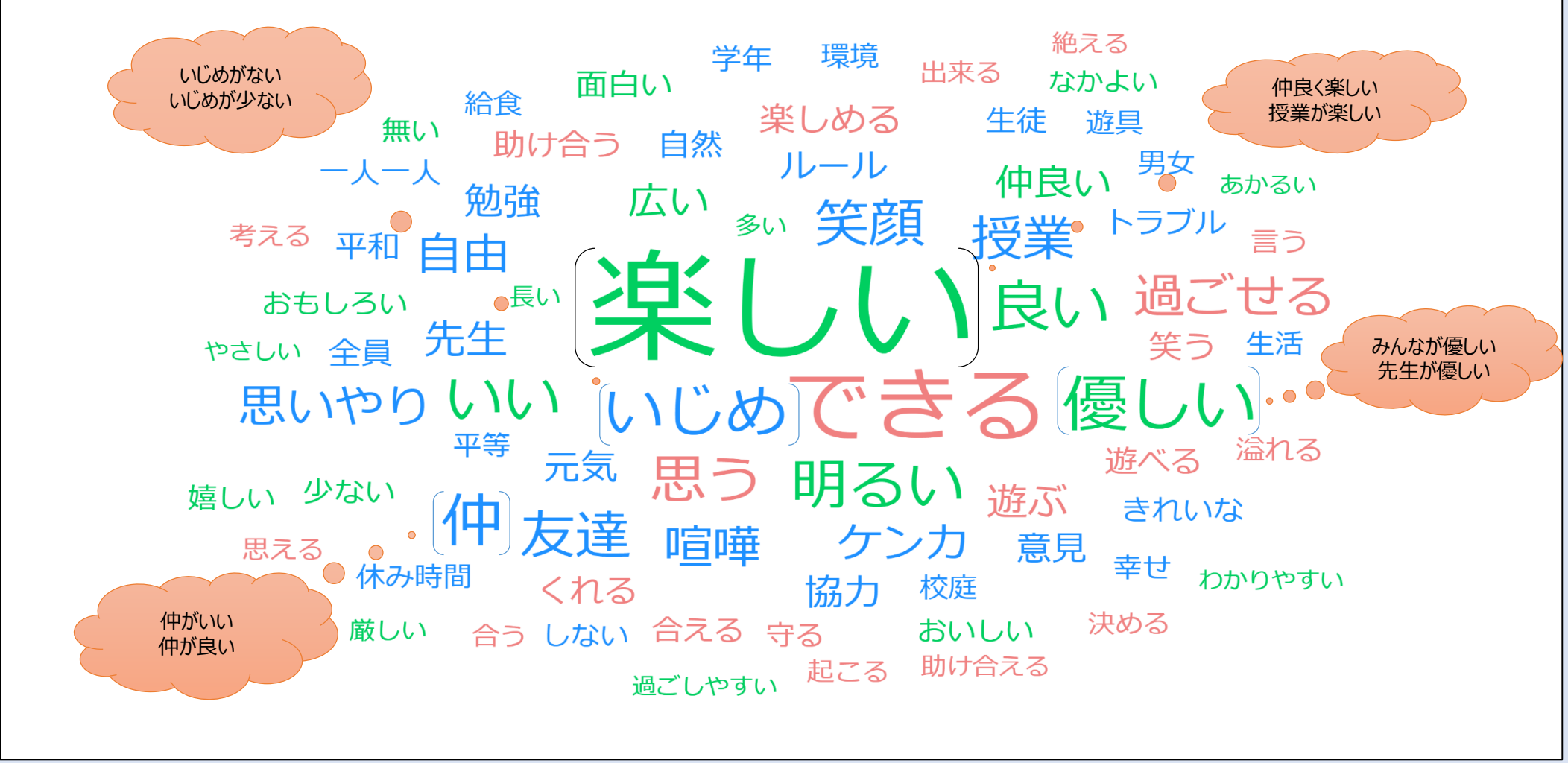
	実施数	回答者数	回答率
小学1年生	88名	55名	63%
小学2年生	89名	89名	100%
小学3年生	85名	64名	75%
小学4年生	106名	104名	98%
小学5年生	107名	62名	58%
小学6年生	104名	60名	58%
中学1年生	62名	58名	94%
中学2年生	58名	41名	71%
中学3年生	64名	55名	86%
合計	763名	588名	77%



子どもの意見（概要）については、次のページに記載

■アンケート実施結果 (テキストマイニング)

質問 1 みんなが楽しいと思う学校は、どんな学校ですか。また、どんな学校にしたいですか。



いじめがない
いじめが少ない

仲良く楽しい
授業が楽しい

みんなが優しい
先生が優しい

仲がいい
仲が良い

問1の参考資料

出現頻度

問1 全体 (名詞)

名詞	出現頻度	
仲	45	～が良い ～がいい
いじめ	44	～がない、～が少ない ～のない
友達	36	～と仲良く、～がいっぱいいる、 ～思いな、優しい～
笑顔	35	～に満ちた みんなが～ ～が溢れる
授業	32	～が楽しい、～が面白い ～がない
喧嘩	27	～をしない ～がない
思いやり	25	～のある、～がある
自由	24	～な、～に、～時間
ケンカ	21	～がない、～のない
先生	19	～が優しい、～が怒らない
協力	17	～できる、～する
勉強	17	～できる

問1 全体 (動詞)

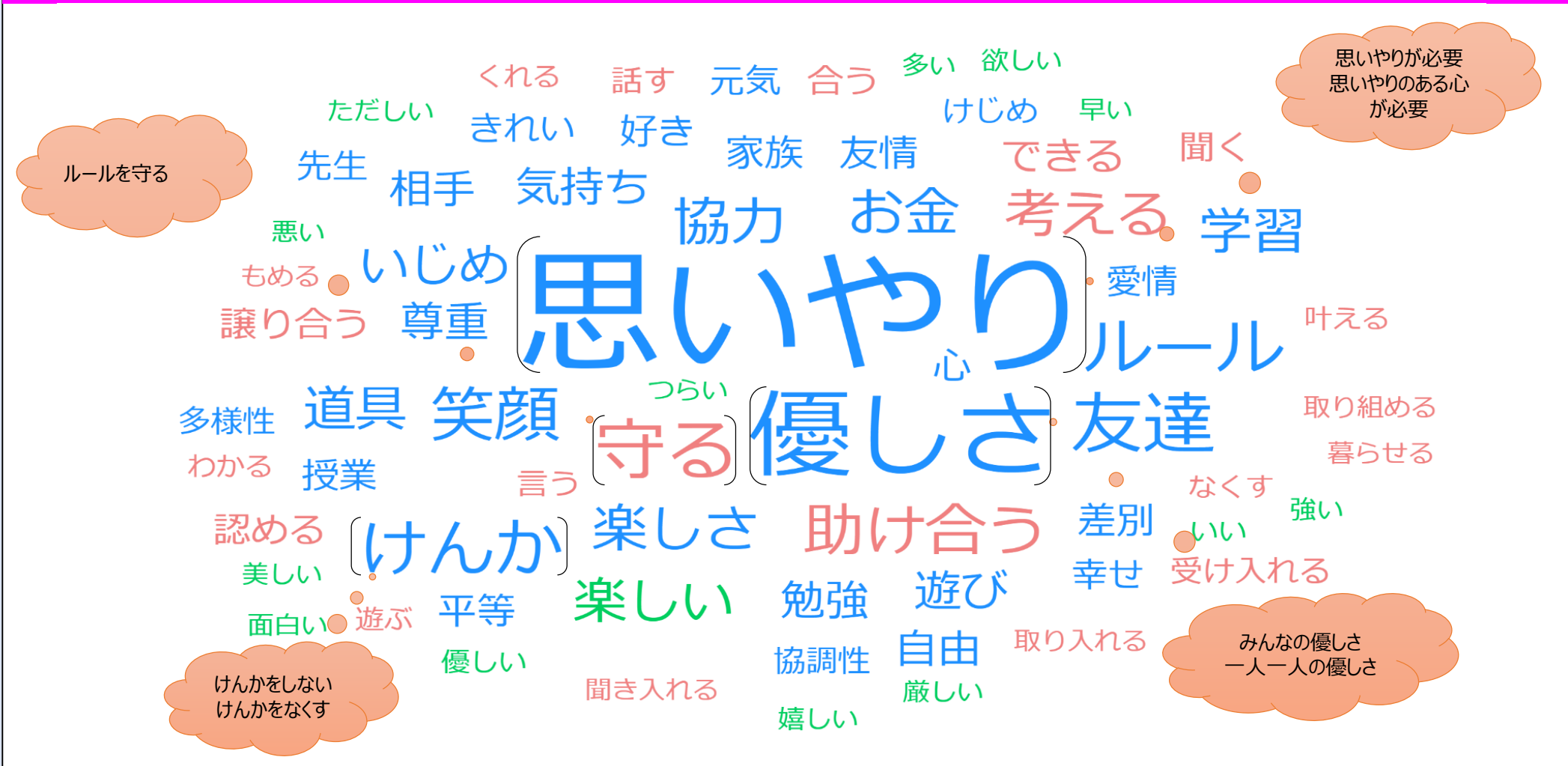
動詞	出現頻度	
できる	66	～ができる、協力～、楽しく～
思う	31	～と思う、～だと思う
過ごせる	22	笑顔で～、仲良く～ 楽しく～、心地よく～
遊ぶ	15	～時間、～時に
楽しめる	11	みんなが～、勉強を～
笑う	10	仲良く～

問1 全体 (形容詞)

形容詞	出現頻度	
楽しい	114	仲良く～、授業が～、明るく～
優しい	39	みんなが～、先生が～
良い	34	仲が～、仲の～
いい	33	仲が～、～がいい
明るい	32	～学校、元気で～
広い	14	校庭が～、体育館が～
仲良い	13	みんなが～、男女～

アンケート実施結果（テキストマイニング）

質問2 みんなが幸せになるためには、なにが必要だと思いますか。



問2の参考資料

出現頻度

問2 全体 (名詞)

名詞	出現頻度	
思いやり	113	～のある心が必要 ～が必要 ～の心 ～を持つ
優しさ	69	みんなの～ 一人一人の～
友達	33	気楽に話せる～ 大切な～
けんか	30	～をしない ～をなくす ～がおきなかったら幸せになる
ルール	28	～を守る
笑顔	25	～が必要だと思う みんなが～でいること
協力	18	みんなの～ いろんな人の～
楽しさ	15	～だと思います ～が必要
お金	15	～持ち ～と時間
学習	13	～道具

問2 全体 (動詞)

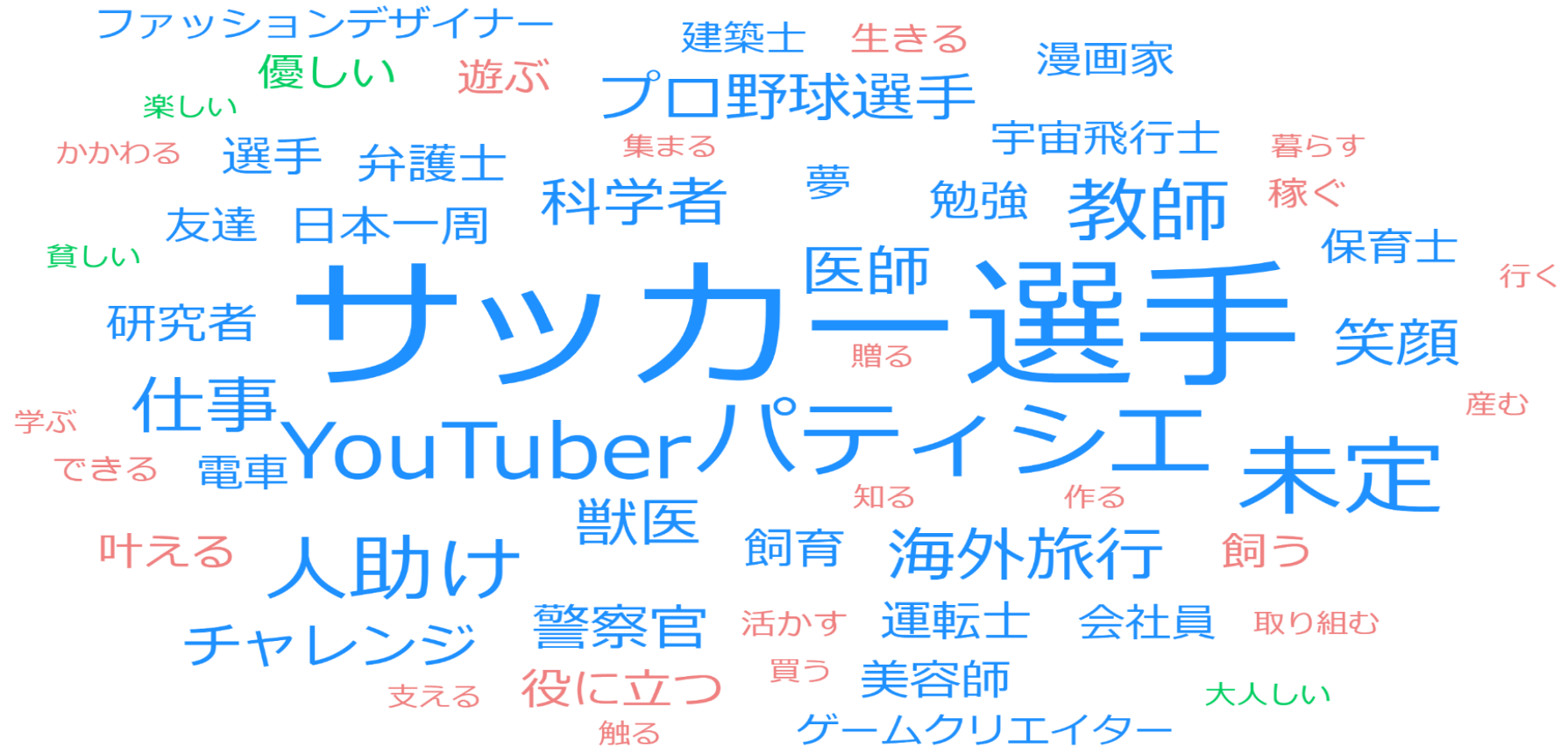
動詞	出現頻度	
守る	28	ルールを～
助け合う	17	協力し～
考える	12	相手の気持ちを～ 一人一人の気持ちを～ 全員が相手のことを～
できる	6	安心～、信頼～ 相談～
譲り合う	5	～気持ち
認める	5	相手を～
合う	4	話し～
聞く	4	人の意見を～ 先生の話～
受け入れる	3	～心

問2 全体 (形容詞)

形容詞	出現頻度	
楽しい	10	みんなが～ ～生活
優しい	2	～人

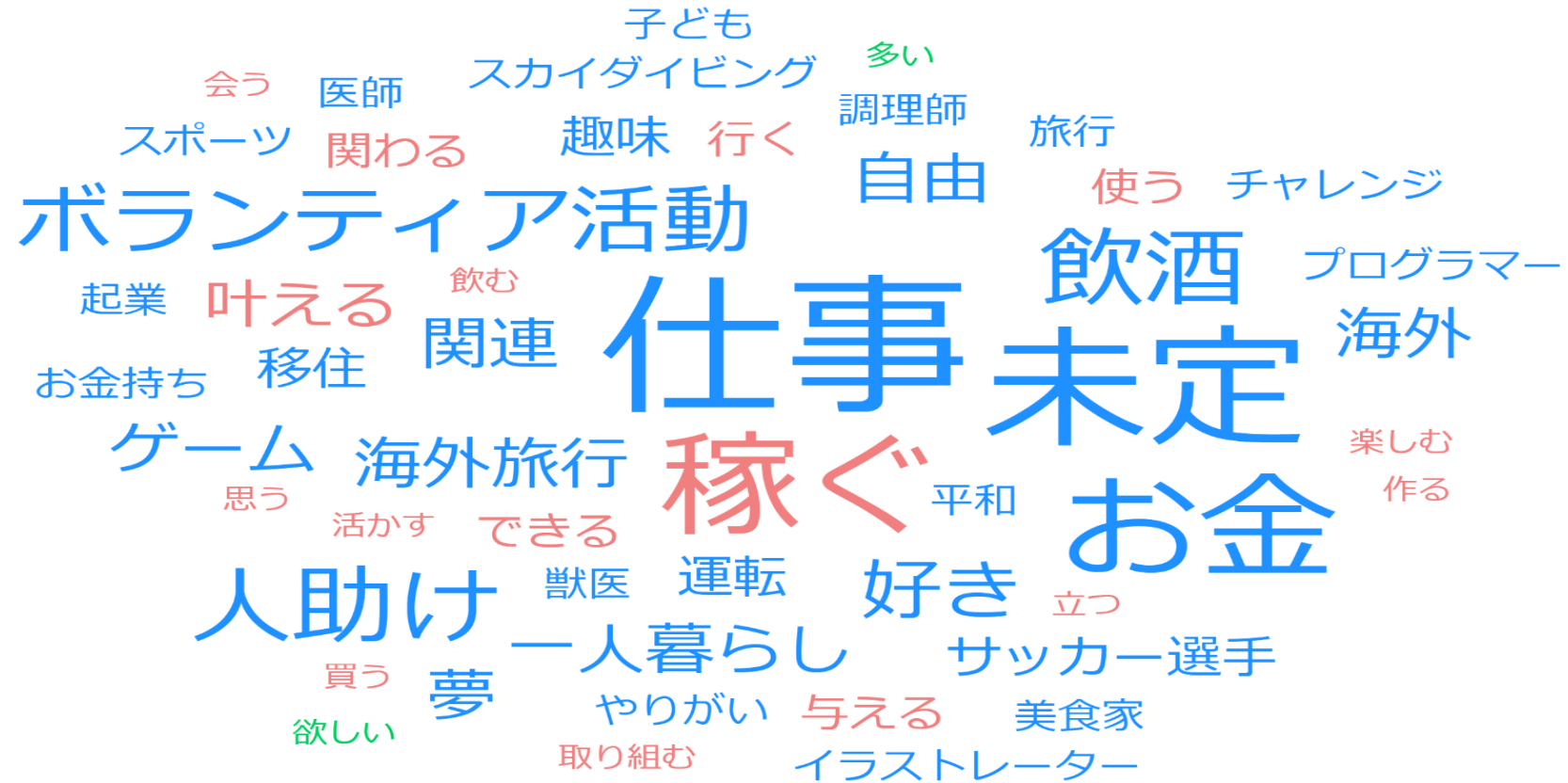
■ アンケート実施結果（テキストマイニング）

質問3 大人になったら、どんなことをしたいですか、してみたいですか。（小学生）



■ アンケート実施結果（テキストマイニング）

質問3 大人になったら、どんなことをしたいですか、してみたいですか。（中学生）



■ アンケート実施手法（参考）

テキストマイニングとは

テキストマイニング（英: text mining）は、文字列を対象としたデータマイニングのこと。通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や共出現の相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法

名 詞：青色で表記

動 詞：赤色で表記

形容詞：緑色で表記

※出現頻度が多いほど字体が大きく太くなる

■ワークショップ実施概要

実施概要など

子どもの権利について考える「ティーンエイジ会議」
(子ども・若者部と共催)

1. 実施日

令和4年10月23日(日)

2. 実施場所

池ノ上青少年交流センター

3. 参加人数

12名(9歳から17歳)

※小学生、中学生、中・高校生の3グループに分かれて
ワークショップを行った。

※ファシリテーターは、各グループ2名

4. 発表・講評

なんでやねん！カードを作成し、グループごとに発表
区長、教育長などから講評

5. 意見など

小学生のグループでは、「結果だけ見て怒る」「コロナ禍で共働き一人での時間が長かった」など、家族や家庭内に関する意見が多かった。

中学生のグループでは、「夏休みは休むためにある！宿題があると休めない」「子どもは何でメイクしちゃうダメなの？」など、学校に関する意見が多かった。

※会議報告書については、区HPに掲載
※1月中旬にフォローアップの会を予定



子どもたちの意見



■ 今後の子どもの意見聴取について（別紙3）

★ 令和4年度～5年度

